

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3671300592
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム 高砂
所在地	徳島県阿南市那賀川町芳崎366-1 (電話) 0884-42-1000

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年7月9日

【情報提供票より】(平成 20年 6月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算 吉野川 7人, 那賀川 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ - 円
	または1日当たり		- 円

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳島ロイヤル病院
---------	----------

徳島県 グループホーム高砂 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は農家が点在する田園地帯にある。食堂南面の窓からは緑の風景が180度眺められ、天井は高く開放感があって明るい。屋内は清掃が行き届き、壁の色や調度品は家庭的であり利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。関連法人の病院や併設事業所と連携があり、医療やリハビリ面で利用者・家族の安心感に繋がっている。終末期の看取りについて方針が示され、家族や関係者間で話し合いがもたれている。職員は利用者がのびのびと喜びのある暮らしができるように常に心がけながら支援している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「重度化や終末期に向けた方針の共有」は関係者間での話し合いが行われ改善されている。「鍵をかけないケアの実践」、「運営推進会議の定期的な開催」は改善されていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び全職員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は過去1年間の間に3回開催し家族代表、地域住民、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。会議内容は事業所から運営状況の報告や地域活動参加への依頼が行われている。参加者からは地域の行事予定等の情報が提供され、地域防災活動への参加等が話し合われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ユニットごとに意見箱を設置したり、家族会や家族の来訪時には声かけを行い要望等を聞いている。その内容は記録して職員ミーティングで改善に向けて話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入して自治会会合や神社清掃に参加したり、ボランティアや実習生(短大生等)を受け入れたりとしている。また月2回の理容師の来訪や地元の方から野菜の差し入れがあるなど、地域との交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳と安全」「地域交流」を柱にして、利用者主体の生活を支援するための事業所独自の理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を唱和し、全職員で確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入して自治会会合や神社清掃に参加したり、ボランティアや実習生(短大生等)を受け入れたりしている。また月2回の理容師の来訪や地元の方から野菜の差し入れがあるなど、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価について管理者、職員で話し合いながら具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表、地域住民、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。会議内容は事業所から運営状況の報告や地域活動参加への依頼が行われている。参加者からは地域の行事予定等の情報が提供され、地域防災活動への参加等が話し合われている。しかし過去1年間の開催回数は3回となっている。	○	運営推進会議の開催は、2ヶ月に1回開催されるよう取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人全体としては行き来する機会はあるが、事業所独自での連携が図られていない。	○	事業所の実状やサービスの取り組みについて話し合う機会を持つことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や電話等で健康状態等を報告している。また行事に参加した様子などの写真を掲載した「グループホーム高砂」便りを毎月、家族に送付して暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットごとに意見箱を設置したり、家族会や家族の来訪時には声かけを行い要望等を聞いている。その内容は記録して職員ミーティングで改善に向けて話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はユニット間だけにとどめ、利用者への職員紹介や引き継ぎを十分に行い利用者に影響が出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月の法人内研修に参加している。また段階に応じて実践者研修等の法人外研修に参加する機会も確保されており、受講内容は全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して他の事業所と交流したり情報交換を行うなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームを見学してもらい、事業所の雰囲気を知ってもらっている。サービス開始時には本人と接する機会を多く取り、安心感を得てもらおうように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から野菜作りや調理の仕方を教えてもらったり、洗濯物干しや家事を手伝ってもらっている。職員は利用者と生徒・先生、孫・祖父母、友達等の関係になりながら、常に耳を傾けて互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や思い出話などに耳を傾けて気持ちを把握し、その日の体調や状態等を見守りながら利用者のペースに合わせた生活を送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや日常の関わりの中で本人や家族の思いを把握することに努め、毎月モニタリングしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画の見直しがされており、利用者、家族の意向の確認ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして週1回の医師による訪問診療や看護師の訪問相談等が行われている。職員はグループホームの利用や介護、医療関係とのパイプ役として電話や自宅に向いた相談活動も実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診支援や週1回のかかりつけ医の訪問診療があり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた指針が示され、本人や家族、職員、かかりつけ医などとの話し合いが行われ、関係者で共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書や重要事項説明書等にプライバシー保護の規定を明記している。管理者はボランティア受け入れ時などに説明を行う等、個人情報の取り扱いも徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調等に配慮しながら、本人の気持ちや希望に合わせて自由にその人らしい生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの食材の好き嫌いや嗜好品を把握し、メニューを工夫したり飲み物を添えたりしている。食事準備や後片付け等は会話しながら楽しく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけは入るか入らないか、また時間帯など本人の希望にそえるようにしている。入浴を嫌う利用者についてはそれぞれの特徴を記録し、声かけやの方法やタイミング等を工夫して無理なく楽しめるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ゴミ出しや洗濯物干し、ぬり絵や俳句、野菜作りなど本人の経験や生活歴などを活かした役割ごとや楽しみごとを見つけ、職員は利用者ができることに合わせながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所近くにある桜や菖蒲など季節ごとの花見のほか、買い物や散歩など利用者の希望にそった外出支援が日常的に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したそうな様子であれば、職員は見守りながらさりげなく付き添っている。しかし事業所が2階にあり階段などでの危険回避のため、玄関などの出入りに鍵をかけている。	○	利用者の安全を確保しながら、日中は鍵をかけないケアができる工夫に取り組むことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成している。消防署の指導を得るなどして年2回通報や消火、避難誘導などの訓練を実施している。また地域との防災訓練についても取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは母体法人の栄養士からの助言を得ながら作成している。食事や水分摂取量はチェック表に記録して把握し、一人ひとりの栄養状態や摂取能力に応じた捕食の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は天井が高く開放感があって明るい。食堂を中心に居室や浴室などがあり、常に利用者の居場所が把握できるようになっている。食卓やソファ、テレビ、カーテンなど家庭的な調度品が備えられ、温かい雰囲気と清潔な中で居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはダンスやテレビのほか、思い思いの小物や写真等を飾り、居心地よく過ごせるようなそれぞれの部屋づくりがされている。		